国際政治Ⅲシラバス

２０１６年４月１１日
阪 口　　功
isao.sakaguchi＊gakushuin.ac.jp（＊→@）
℡：03-3986-0221　内線 4820
法学部共同研究室　内線 4800, 4801, 4803
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20050137/index.html

【授業目的】

国際社会（諸国家からなる社会）はアナーキーである。つまり、国内社会と異なり、中央政府が存在しないのである。しかしながら、そのことは国際社会に秩序が存在しないことを意味するのではない。国際社会は様々な制度を構築することにより、国境を越える問題（平和、貿易、通貨、地球環境、貧困と開発、人権など）に対処してきたのである。本講義では国際制度の形成、発展について理論（国際政治Ⅲ）と実践（国際政治Ⅳ）の二つの視点から学んでいく。

なお､近年国際社会の取り組みだけでなく国境を越えて活動する市民社会アクター（NGO や企業）の自発的な取り組みにも注目が集まっている。実際、人権や環境問題など市民社会アクターの活躍抜きには語れない問題領域も多い。そのため、授業では国家だけでなく市民社会アクターの役割にも着目していく。

- 04 月 11 日　ガイダンス(シラバス詳細)
- 04 月 18 日　世界の構造変化
- 04 月 25 日　公共財の理論
- 05 月 02 日　リアリズム①(古典的リアリズム)
- 05 月 09 日　リアリズム②（ネオリアリズム）
- 05 月 16 日　リベラリズム①(起源、概念、統合論、相互依存論)
- 05 月 23 日　リベラリズム②(ネオリベラリズム、民主主義平和理論)
- 05 月 30 日　社会構成主義①(アプローチ、知識共同体理論)
- 06 月 06 日　社会構成主義②（規範の普及と内面化）
- 06 月 13 日　世界市民社会論①（NGO 論）：国際社会と市民社会
- 06 月 20 日　世界市民社会論②（企業の役割）
- 06 月 27 日　休講予定
- 07 月 04 日　映像資料視聴予定
- 07 月 11 日　学期末テスト（予定）
- 07 月 18 日　予備日

※　地球と将来の子どものために団扇などを持参すること。

【レジメ】

- 研究室 HP「授業関連」より DL。
  ※要パスワード(学生証記載の花の名前をローマ字小文字 6 字で入力)

【教科書】

- 野林健ほか『国際政治経済学入門』新版、有斐閣、2011 年
- 山田 高敬ほか『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006 年

・ 大矢根聡『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013 年。
・ 飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007 年
・ 河野勝ほか『アクセス　国際政治経済論』日本経済評論社、2003 年
・ 山本吉宣『国際相互依存論』東京大学出版会、1990 年
・ インゲ・カールほか『地球公共財：グローバル時代の新しい課題』、日本経済新聞社、1999 年
・ 吉川直人『国際関係理論』、勁草書房、2006 年
・ アンツェ・ヴィーナーほか『ヨーロッパ統合の理論』、勁草書房、2010 年
・ 毛利聡子『NGO からみる国際関係：グローバル市民社会への視座』、法律文化社、2011 年
・ 山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008 年
※ 授業に参加するにあたって、最低限『グローバル社会の国際関係論』を通読すること。

【参考文献】
・加藤秀治郎ほか『国際政治の基礎知識』増補版、芦書房、2002 年
・猪口孝『国際政治事典』弘文堂、2005 年
・川田 侃ほか『国際政治経済辞典』東京書籍、2003 年

【成績評価】
・ 通常授業日に学年末試験を実施する。
・ 平常点加点 10 点、エッセイ課題を予定。

【不正行為について】
・ 試験、テスト、レポート類における不正行為が行われた場合は、学内規定に従い一年間の単位がすべて抹消される。
・ 「内定先が決まっており、どうしても単位が必要なのでよろしくお願いいたします」などと成績評価において手心を要望するようなことを答案に記したり、メール、その他の手段で連絡してきた学生は、履修放棄として扱う。

【出欠について】
・ 3 分の 1 以上欠席した学生は学期末試験を受験する「権利」を失う。当然「追試験」・「再試験」についても対象外とする。ただし、出席回数は成績評価に含めない。

【関連授業について】
・ 他の国際政治関連科目（グローバル・ガバナンス論Ⅰ・Ⅱ、国際政治史Ⅰ・Ⅱ、国際政治経済Ⅰ・Ⅱ、国際開発協力論Ⅰ・Ⅱ、国際政治Ⅰ・Ⅱなど）も履修することが望ましい。
・ 特に初学者は、グローバル・ガバナンス論Ⅰ・Ⅱ、国際政治史Ⅰ・Ⅱを履修することが望ましい。